



< 総合内科 >

概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、肥満症などの生活習慣病は、生活様式の欧米化とともにますます増加している。

総合内科では、これまでこのような生活習慣病、とくに、糖尿病をメインテーマとして、眼科、腎臓内科、循環器内科、整形外科、皮膚科など多くの科と連携しながらその診療に当たってきた。

糖尿病は、多くの場合、自覚症状がほとんどないため、本人が気づかぬまま、あるいは、健康診断などで糖尿病を指摘されていても、そのまま放置されやすい。しかし、糖尿病に伴う種々の合併症は無症状のうちに進行し、ついには生活の質を大きく損なうとともに、生命をも脅かしている。

糖尿病にまで至らない、耐糖能障害の段階であっても、耐糖能障害は、肥満症、高血圧症、脂質異常症(高脂血症)、高尿酸血症などの慢性疾患と密接に関連しあい、動脈硬化を進行させ、狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患や脳梗塞などの脳血管障害のリスクとなる。

内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧症・高中性脂肪血症の合併は、「メタボリックシンドローム」とよばれている。それぞれは軽症であっても、併せ持つことにより、虚血性心疾患のきわめて強力なリスクとなる。

当科では、糖尿病と関連するこれらの診療にも力をいれてきた。

外来診療では、ながらく、糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症(高脂血症)などの診療と糖尿病体験(教育)入院を行ってきたが、平成 22 年 4 月より糖尿病・内分泌内科の新設にともない、総合内科の入院病床はなくなった。そして、現在は糖尿病外来や糖尿病教育入院など糖尿病の外来・入院診療は糖尿病・内分泌内科にて行われている。

平成 22 年 4 月以降は、新規を除く糖尿病/耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症(高脂血症)、肥満症、高尿酸血症などの外来診療を継続するとともに、内科の各科と tie-up して原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療をおこなっている。

(鳥居俊男)

業績

- 座長

座長

1. 前立腺癌について 豊橋市民病院泌尿器科部長長井辰哉先生
鳥居俊男
第 54 回豊橋市民病院健康教室(豊橋)2011.8.20

